

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400080		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム 市原国分寺台		
所在地	千葉県市原市国分寺台中央4-1-5		
自己評価作成日	平成22年5月8日	評価結果市町村受理日	平成22年6月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成22年5月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・外出や行事は入居者様の意見を取り入れ、行きたい所、やりたいことをすぐに実行している。</p> <p>・日頃からアセスメントに注力し、過去暦を会話から調べ、ケアプランに反映させるとともに、さらにそこから会話内容を掘り下げ、入居者様のその人らしさを知る努力をしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>国分寺史跡の直ぐ傍にある閑静な住宅街に立地し、全館スプリンクラー設置、IH調理機器、床暖房など安全面と住心地に配慮した設計の2年目のホームである。「愛の家のこだわり」という法人の3つの運営理念の下、「その人らしい穏やかな生活・心を込めた親切なサービス・地域の人々とのふれあいを大切に」とのホーム独自の方針を立てている。特に「その人らしい」にこだわり、「発見と改善」を今期のテーマとし、職員が入居者の好きなこと・したいこと等の気付きをファインドボードに貼付し、「その人らしい」ケアの改善へ繋げることを常に話し合い、全ての職員が、生き生きと明るく個々に合ったケアの実践に努めている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の運営理念を申し送り時や会議開催時に必ず唱和し職員全員で共有を行い理念に沿った行動を行っている。	法人の3つの運営理念を共有すると共に、「発見と改善」を今期のテーマとしている。職員が入居者の何気ない仕草や言葉等からの気づきを付箋に記入、ファインドボードに貼付し、「その人らしい」ケアの改善へ繋げることを常に話し合い、個々に合った入居者本位のケアの実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時のあいさつを欠かさず行っている。夏祭りのときは近隣の方々にも声をかけ参加していただいている。	入居者が散歩時に会おう方と挨拶を交わしたり、花を植えてある庭の方からお花を頂いたりする。ホームの夏祭りに近隣の方に声をかけ参加した頂いている。自治会に加入しているが、地域の行事や市の納涼祭への参加や体験学習の受け入れなどを今後の課題としている。	開設1年目であり、今後自治会行事への参加や地域の学校の体験学習の受け入れ、介護相談等、地域との交流を盛んにしていくことを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や研修生の受け入れを検討しているが、現在は地域貢献には至っていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では施設の状況報告・月々の活動報告を行い、そのうえでご家族様より意見をいただき、今後の活動やケアプランに反映させて頂いている。	運営状況・活動状況・今後の予定等を議題とし、家族・自治会長・市職員等の参加を得て、2ヶ月に一度定期的に開催している。イベント報告を写真で紹介する等意見を頂きやすいよう工夫し、頂いた意見等を運営に活かすように努めている。	今回が初めての外部評価受審である。自己評価・外部評価結果と共に、目標達成計画等を議題とし、具体的なサービス提供状況について意見交換できるよう工夫されることを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡・相談を市役所の各担当者と取り指示を頂けるようになってきている。運営推進会議にも参加していただけるようになった。	地域包括支援センターや高齢福祉課を訪問し、入居者の近況や家族の意見等をお話している。音楽ボランティアを紹介していただいたり、ホームの夏祭り時に市役所の駐車場を貸していただいたりと協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止についての研修会を開催し、なぜ拘束をしてはいけないのかという理念を共有している。	研修会を実施し、身体拘束された時の入居者の身・心に与える影響や信頼関係喪失のリスク等を良く話し合っている。職員同士の見守りや情報の共有により、日中は玄関も解錠する等、拘束をしないケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に向け研修会を開催し、日々防止に向け努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム長研修などで本社に手講義を受けているが活用できる段階には至っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際にひとつひとつの項目の読み合わせを行い、不明点を確認したうえで契約を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの意見は随時受け取り活動に組み入れたり、ケアプランに活かした上で運営推進会議にて報告を行っている。	家族が「お任せします」と何も意見のないことは、期待してませんよと捉え、どんな些細な要望でも言っていただくようにしている。本人が「ラーメンが食べたい」と言ってます等の要望をイベント委員が企画し実現している。利用者・家族の意見で改善したことなどを運営推進会議で報告するようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・全体会議を開催し、職員からの意見を受け取っている。内容を精査したうえで反映できるものは活動に活かしている。	職員が意見を言い易い雰囲気作りがなされている。習字をレクに取り入れる為の道具の購入やトイレ芳香剤は誤飲の危険性があるからスプレー式の消臭剤にする等の提案を運営に反映させている。外出やレクレーション委員会のリーダーを職員に任せる等職員のモチベーションアップの工夫もしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員への負担が減るように心掛けているが、欠員があり、残業やシフト変更など厳しい労働となってしまうている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	不定期ではあるが内部研修を開催したり、外部の勉強会に参加させていただきスキルアップに努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他社や老人ホーム・在宅への連絡は行っているが相互訪問できるまでには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が入居される前に会い、困っていることや不安な事と希望などを伺うアセスメントを行い安らげう場づくりができるように心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に要望を伺い、それを施設での生活に反映できるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のアセスメントにより施設での生活やサービスを考え、状況に応じてはサービス内容やケアプランの再構築を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	すべての介護をして差し上げるではなく、その場に応じて必要なところのみ援助できるように日々考え行動している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントや活動報告や予定を報告し、できるだけ来所していただけるような環境をつくり、入居者様の支えとなっていただいている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や関係者の訪問を積極的に受け入れている。また、入居者様が以前参加していた団体にボランティアを依頼して来所していただいている。	会社の友人や老人会の友人が訪ねてきたり、大正琴サークルの友人が演奏にきてくれる。海釣り公園や子供の国など、昔良く子供を連れて遊びに行った場へお連れする等、馴染みの関係を継続する支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様にコミュニティができるように定期的に席替えを行い、会話の間に職員が介入しそれぞれが良好な環境ができるように援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去され他施設に入居された入居者様にも面会に行っている。また、ご逝去となってしまう場合にもご葬儀やご家族様へのあいさつを行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのような生活が行いたいのかを入居者様やご家族に伺い担当者やユニットで話し合っていたり、カンファレンスで意思の統一を行いケアにあたっている。	利用者が一番大事にすることをプランに反映するためファインドボードを活用、各職員が気付いた生の情報をメモ書きし利用者ごとにボードに貼り情報収集している。家族からも要望の聞き取りをし、ユニット会議で話し合い、その人らしい思いや意向の把握に努め共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントだけでなく日々の会話の中から情報を引き出し、過去歴や生活歴を把握していく活動を行っている。また、不明な点はご家族様に伺いより精度の高いものに構成している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化がわかるように個人記録にいつもと何が違うのかわかるように記入し、全員で共有できるように申し送りや連絡をするようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成するうえで居室担当者にモニタリングを行っていただいている。また、それらを踏まえたうえで職員間でカンファレンスを行いそこから得た情報でケアプランを作成している。また、ご家族にもケアプランの作成後に説明を行い、変更点があれば都度変更を行っている。	毎週土曜日をモニタリングの日とし、職員が個々のサービス計画の実施状況・効果・本人の反応を評価している。実施状況の総括と評価をカンファレンスで検討し、職員全員から意見を聞けるという情報収集体制が確立され、チームとしての仕組みがうまくプランに反映できるようになっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中から変化があったことや気付いたこと会話を重視し記入している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の状況に応じて、通院や送迎などを場合により柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所よりボランティアを紹介していただき、入居者様の参加されていた団体に音楽ボランティアに入らせていただき日々の生活が豊かになるようにしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医や事業所の協力病院だけでなく、入居以前から受診している病院にも受診ができるようにご家族様に協力をお願いしている。通院介助はご家族様をお願いしているが、緊急時や不可能場合は職員が行っている。	2週間に一度定期往診頂いている医師との協力体制が確立されており、夜間や緊急時にも対応して頂ける事は利用者や職員の医療に関する安心となっている。入居前のかかりつけ医への受診は利用者や家族の希望を尊重している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師と往診医・介護職員が連絡を取れる状態を構築しており何かあった場合は連絡が取れるように態勢を整えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に入居者様の情報を伝え、職員が見舞いに行っている。また、ご家族とも連絡を取り状況を教えていただき退院援助に勤めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	新規開所の事業所のため終末期の連携を現在往診医・訪問看護ステーションと連絡をとり構築している最中である。	終末期のケアに関しては「重度化した場合における医療体制指針」を文書として残しており、医療機関・ナースとの確約が出来ている。ホーム長は看取りは受け入れる方針であるが、職員全員の協力が無ければ受け入れをしないという事で合意されている。終末期ケアへの取り組みを今後の課題としている。	ホーム長は、いずれ直面する終末期ケアについて、研修・勉強会をし、職員の意識の共有と理解を高め、終末期ケアに取り組める準備をしておきたいとのことである。取り組みと成果に期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や急変時は往診医や看護師と速やかに連絡が取れるように態勢を整えており指示をいただき動けるようになっている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っており、担当消防署との連携を取っている。また、避難訓練には消防署に参加していただいております。	スプリンクラー、緊急通報装置が設置されており、空調や調理にも火を使わない配慮がなされている。さらに防火用自主点検票で毎日点検を行っている。消防署との避難訓練も実施されている。災害時用の食糧・水は備蓄されている。	自治会や近隣の方に呼び掛けて消防訓練を企画するなどして近隣の理解を深めてほしい。又夜間専用の連絡網を作成することも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の個性に合わせた声かけ、対応を行い接している。特に声かけはわかりやすいように心掛けている。	理念であるその人らしさをケアで実践するに当たり、特に声かけに配慮している。利用者の呼び方は家族の了解をとった上で一番いい反応の呼び方になっている。声が漏れるから風呂の窓を閉める等一人ひとりのプライバシーの確保に配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事や外出・外食は入居者様から意見をいただき反映するようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおむね決まっているがその人の時間で生活できるようにしている為、強制は行っていない。しかし、入浴・食事に関しては時間の兼ね合いもあり時間を決めさせていただいている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活に合わせて衣類やオシャレをしていただいている。時には化粧や、訪問理美容を利用し身だしなみを整えている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の身体状況にもよってしまうが、食事の準備に入居者様に参加していただき、食事中は楽しい場になるように職員から住居者様に話しかけている。また、下膳は基本的に入居者様に行っていただいているが身体的にできない方のみ援助している。食後はテーブルふきや食器拭きに協力していただいている。	献立は栄養士が作成しスタッフが調理しているが、入居者の好きなメニューやパン食等に変更が出来るようにしている。職員によるおやつ委員を決め利用者参加でおやつ作りを楽しんでいる。月一回の外食日やイベント時には、洋食やラーメン、寿司など季節感や変化を楽しめる工夫がされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援	医師とも相談したうえで食事量は決定しているが、食事量が少ない方や水分量が少ない方・多すぎる方は摂取量を確認できるように表を作成し対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアができるように準備をしておき、食事が終わった方から随時行えるようにしている。身体的に難しい方のみ援助を行っている。義歯に関しては夜間は預かりとし洗浄剤で清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツから紙パンツへ、紙パンツから布パンツへの考えのもとその人に合った排泄形態を選んでいる。また、尿意があいまいな方でもトイレ誘導を行うように心掛けている。	日中のおむつ着用は、全ての自立を阻害する元であるとの考えのもと排泄の自立支援をしている。一人ひとりの排泄兆候の癖や排泄チェック表で排泄リズムをつかんで声かけ誘導している。おむつから紙パンツそして布パンツへと成果が出ており、今は日中のおむつ使用者はいない。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄の状況を把握し、便秘が続くようであれば看護師や往診医とともに対応を考えている。また、日頃から便秘がちの方には腹部のマッサージと運動と水分を摂っていただいている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おおむね入浴時間は決まっているが入浴が楽しみになるように運動後に入浴していただいたり、入浴剤を活用したり、自立の方に関しては夜間でも見守りを行いながら入浴をいただいている。	日曜日以外はいつでも入浴できる。最低でも週2回を基本としている。夜でも入浴可能とし入居者の希望に良く対応している。入浴拒否者にはパターンを見て入浴を勧めるが、足浴も取り入れ清潔に努めている。入浴を楽しんでもらい風呂での会話が弾むように努力している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中できるだけ活動していただき、夜間に気持ちの良い眠りが取れるように援助をしている。時には入眠前の温かい飲み物や眠るまでの見守りを行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は週に一度用意するときに確認をしたうえで用意をしている。また、毎食時に薬を用意するものと確認をするものを別に間違えないようにしている。さらに、服薬時に用意した者と確認した者が再度声をだし目視で確認してから服薬していただいている。さらに、薬の変更が		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意分野を活かしていただきレクリエーションや家事に参加していただいている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調を考慮したうえで散歩や買い物に参加していただいている。	近くの公園へ出かけるなどの日常の散歩はルートを決め、近隣の方々とは顔見知りとなっている。駐車場でのお茶会をするなど日光浴にも気を配っている。毎月1回、外出委員の職員が企画し、養老溪谷・海釣り公園や合唱コンクールに行く等、普段行けないような場への外出支援も良くしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理全体は事業所が行ってはいるが、各委員会に予算を示し、計画的に使用していただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話対応はかける場合はユニットリーダー以上に統一し、かかってきた場合はだれでも出るようにしている。また、各入居者様の担当には月に一度ご家族様へ活動報告を含めた手紙を作成していただいている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけや掃除を入居者様とともにを行い家庭的な雰囲気を味わっていただいている。	共用空間のフロアは床暖房、24時間自動換気となっている。利用者の多くはテレビ周辺に集まり、一人ひとりの居場所の確保が職員の配慮によってなされている事で、入居前には話す機会が無かった利用者がよく話をするようになったなど、明るい雰囲気作りが出来ている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様のコミュニティを把握したうえで席の配置を行っている。また、TVが好きな方にはTVの近くに席を配置したりとその方の安心する場に居場所を作成している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や生活が刻まれたものを持ってきていただき、ご自分の部屋という雰囲気が出るようにしている。	クローゼットが標準設置されていて、居室スペースは余裕がある。茶碗、鏡台、ベッド、カーテン、趣味のものなど入居前に使用していた使い慣れたものを極力持ち込んでもらい、自分の空間として安心できる居室としている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレなどは分かりやすいように表示を行っている。また安全に生活が送れるように廊下・トイレ・浴室・フロアに手すりを設置している。		